

東京家政大 ○神野 節子  
小友 洋子  
林 知賀子

1. 前報に引続いて羊毛汚染微生物の種類や羊毛汚染の様相を解明し、防菌の基礎資料とすることを目的とする。

2. 汚染された羊毛せんい、織物などの小片をブイヨン培地に投入し、30°C で培養した。出現菌を希釈法あるいは画線法で普通寒天培地に分離培養し、そのコロニーを単離して純粋培養を行なった。分離した31種のバクテリアは各種の生理試験、電子顕微鏡による形態検査を行ない、種の同定の試料とした。

別に、精製した羊毛繊維をブイヨン中に投入し、培地と共に滅菌した。これらに分離菌を接種して、菌を接種しない試料に比較して、菌の生産色素による羊毛汚染状態を肉眼観察した。また、分離各菌の羊毛繊維にあたえる影響を強伸度上から、あるいは羊毛織物磨耗上から測定した。

3. 以上の試験結果31種の菌の種類や羊毛汚染の様相に関する知見を得たが、莫大な成績となったので今回は羊毛汚染菌として分離したバクテリアの判明した形態、生理的特性を主として報告し、あわせて菌の生産色素による羊毛汚染を報告する。